

トカラ列島から得られたゴマサバの胃内容物からみつかった マルバラシマガツオ (シマガツオ科)

畑 晴陵¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

シマガツオ科魚類 Bramidae は日本近海から 6 属 10 種が知られている (波戸岡・甲斐, 2013; Hibino et al., 2014). そのうち, マルバラシマガツオ *Brama orcini* Cuvier, 1831 はこれまで鹿児島県内において薩摩半島西岸 (南さつま市笠沙町沖), 大隅半島東岸 (内之浦湾), 大隅諸島 (種子島), および奄美群島 (奄美大島) から知られていた (畑ほか, 2015).

2015 年 6 月 22 日, 鹿児島県トカラ列島中之島近海で漁獲されたゴマサバ *Scomber australasicus* Cuvier, 1832 の胃内容物としてマルバラシマガツオと同定される 1 個体が得られた. 本標本はトカラ列島における本種の標本に基づく初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Moteki et al. (1995) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った. 各種の生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島県産標本のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した.

Hata, H. and H. Motomura. 2015. Record of *Brama orcini* (Perciformes: Bramidae) found in the stomach of *Scomber australasicus* (Scombridae) from the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 203–206.

☑ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1–21–24 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

結果と考察

Brama orcini Cuvier, 1831

マルバラシマガツオ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 74354, 体長 27.0 mm, 鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入した鹿児島県トカラ列島中之島近海 (29°51'N, 129°43'E) で釣獲されたゴマサバ *Scomber australasicus* (KAUM-I. 74324, 体長 314.2 mm) の胃から採取, 2015 年 6 月 22 日, 畑 晴陵.

記載 背鰭条数 34; 臀鰭条数 30; 胸鰭条数 20; 腹鰭条数 1, 5; 縦列鱗数 50; 第 1 鰓弓上枝状の鰓耙数 5; 第 1 鰓弓下枝鰓耙数 9.

体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 体高 60.5; 体幅 13.8; 頭幅 12.8; 背鰭前長 46.2; 臀鰭前長 64.8; 腹鰭前長 43.9; 胸鰭前長 30.0; 背鰭基底長 47.3; 臀鰭基底長 48.2; 背鰭起部から胸鰭基底上端までの長さ 42.6; 胸鰭基底長 5.6; 胸鰭基底上端から臀鰭起部までの長さ 30.7; 尾柄長 7.7; 尾柄高 7.3; 頭長 29.4.

体各部測定値の頭長に対する割合 (%) : 吻長 18.9; 眼径 38.8; 眼隔域幅 17.0; 上顎長 45.5.

体は卵型で強く側扁し, 体高は背鰭起部で最大. 頭部背縁は凸出し, 体背縁は吻端から背鰭起部にかけて急に上昇し, そこから背鰭基底後端にかけてやや緩やかに下降する. 体腹縁は下顎先端から腹鰭基底後端後方にかけて急に下降し, そこ



Fig. 1. Fresh specimen of *Brama orcini*. KAUM-I. 74354, 27.0 mm standard length, off Nakano-shima island in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

から臀鰭基底後端にかけてゆるやかに上昇する。尾柄部は体背縁，体腹縁ともに体軸に平行。腹鰭起部は胸鰭基底上端よりもわずかに前方に位置し，腹鰭基底後端は胸鰭第3軟条起部直下に位置する。たまた腹鰭後端は胸鰭基底後端よりもわずかに後方に達する。左右の腹鰭は近接する。胸鰭基底上端は腹鰭第2軟条起部直上に位置し，胸鰭基底後端は腹鰭基底後端よりもわずかに後方に位置する。背鰭起部は臀鰭起部よりも前方に位置し，背鰭基底後端は臀鰭基底後端縁上に位置する。臀鰭起部は背鰭第5軟条起部直上に位置する。背鰭と臀鰭は折りたたむことが出来ない。体側鱗は横長の円鱗で硬く，剥がれにくい。尾柄から尾鰭基底の鱗は後方に行くにしたがって徐々に小さくなる。眼は正円形。鼻孔は2対で眼の前方に位置し，互いに近接する。口は大きく，上顎後端は眼の前縁をわずかに越え，下顎先端は上顎先端よりも突出する。上顎には鋭い円錐形の歯が1列に並び，先端付近の歯は他のものに比べて大きい。下

顎には鋭い円錐歯が1列に並び，下顎先端付近では2-3列。胸鰭基底下端から腹鰭起部までの長さは体長の16.3%，頭長の55.5%。

色彩 生鮮時の色彩 一体は一様に銀白色。体背面は紫がかかった暗褐色。

分布 北緯30°から南緯30°にかけてのインド・太平洋 (Snyder, 1904; 谷津・中村, 1988; 谷津, 1997b; Last and Moteki, 2001; 波戸岡・甲斐, 2013; Bos and Gumanao, 2013) およびアメリカ・カリフォルニア (Mead, 1972) に広く分布する。国内では，相模湾 (波戸岡・甲斐, 2013)，三重県南部 (Hibino et al., 2014)，小笠原諸島，八重山諸島 (望月, 1984; 波戸岡・甲斐, 2013) から報告があるほか，鹿児島県内において，薩摩半島西岸，大隅半島東岸内之浦湾，大隅諸島種子島，奄美群島奄美大島 (畑ほか, 2015)，およびトカラ列島中之島 (本研究) から記録がある。

備考 トカラ列島産の標本は，胸鰭基部下端と腹鰭起部の間隔が体長の16.3% (頭長の

55.5%) であること、縦列鱗数が 50 であること、背鰭軟条数が 34 であること、および臀鰭軟条数が 30 であることなどの特徴が Mead (1972) や谷津・中村 (1988), Last and Moteki (2001), 波戸岡・甲斐 (2013), Bos and Gumanao (2013) の報告した *Brama orcini* の標徴とよく一致した。本種は日本産の同属他種と比較して、胸鰭基底下端と腹鰭起部の間隔が体長の 12% 以上 (頭長の 42% 以上) であること、縦列鱗数が 48–55 であること、背鰭軟条数が 32–36、臀鰭軟条数が 28–30 であることなどから識別される (Mead, 1972; Moteki et al., 1995; 波戸岡・甲斐, 2013)。

これまでマルバラシマガツオは鹿児島県内では薩摩半島西岸 (南さつま市笠沙町沖), 大隅半島東岸 (内之浦湾), 大隅諸島 (種子島), および奄美群島 (奄美大島) からのみ標本に基づき報告されていた (畑ほか, 2015)。したがって口之島沖から採集されたマルバラシマガツオは、トカラ列島からの本種の標本に基づく初めての記録となる。

シマガツオ科魚類の多くはマグロ類などの重要な餌生物であることが知られ (谷津, 1997a), マルバラシマガツオもキハダ *Thunnus albacares* (Bonnaterre, 1788), カツオ *Katsuwonus pelamis* (Linnaeus, 1758), およびシイラ *Coryphaena hippurus* Linnaeus, 1758 などの胃から得られることが報告されている (Snyder, 1904; Mead, 1972; Last and Moteki, 2001)。記載標本は釣りによって漁獲されたゴマサバ *S. australasicus* (KAUM-I. 74324, 体長 314.2 mm) の胃から得られており、本標本はゴマサバによる本種の捕食を初めて記録するものである。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究

博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 262 41027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Bos, A. R. and Gumanao, G. S. 2013. Seven new records of fish (Teleostei: Perciformes) from coral reefs and pelagic habitats in southern Mindanao, the Philippines. *Marine Biodiversity Records*, 6: 1–6.
- 畑 晴陵・伊東正英・山田彦彦・高山真由美・本村浩之. 2015. 標本に基づく鹿児島県のシマガツオ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 41: 73–93.
- 波戸岡清峰・甲斐嘉晃. 2013. シマガツオ科. Pp. 905–909, 1998–1999. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hibino, Y., Okada, M., Moteki, M. and Kimura, S. 2014. Redescription of the shortfin pomfret, *Brama pauciradiata*, based on Japanese specimens (Actinopterygii: Perciformes: Bramidae). *Species Diversity*, 19: 111–115.
- Last, P. R. and Moteki, M. 2001. Bramidae. Pp. 2824–2835 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, volume 5: Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. FAO, Rome.
- Mead, G. W. 1972. Bramidae. *Dana Report*, 81: 1–166, pls. 1–9.
- 望月賢二. 1984. シマガツオ属の 1 種 *Brama orcini* Cuvier. P. 155, pl. 350-B. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Moteki, M., Fujita, K. and Last, P. R. 1995. *Brama pauciradiata*, a new bramid fish from the seas off tropical Australia and the Central Pacific Ocean. *Japanese Journal of Ichthyology*, 41: 421–427.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)

- Snyder, J. O. 1904. A catalogue of the shore fishes collected by the steamer "Albatross" about the Hawaiian Islands in 1902. Bulletin of the U. S. Fish Commission, 22: 513-538, pls., 1-13.
- 谷津明彦. 1997a. シマガツオ科 Bramidae. P. 328. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 谷津明彦. 1997b. マルバラシマガツオ *Brama orcini*. P. 328. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 谷津明彦・中村 泉. 1988. 新顔登場 外洋表層性魚類 (IV) シマガツオ類. JAMRAC, 33: 43-53.